

令和4年度

社会福祉法人新地町社会福祉協議会 事業報告書

本会では、「住み慣れた地域で支え合い安心して暮らせる地域づくり」を目指して各種事業を実施しました。新型コロナウイルス感染症による外出自粛や活動制限が緩和されたことに伴い、福祉関係団体事業、地域のサロン活動も再開する動きが見られております。

そのような中で、地域福祉の充実では、民生児童委員協議会やボランティア団体と協働し、ひとり暮らし高齢者の支援を行ったほか、生活支援体制整備事業、老人クラブ活動育成、いきいきサロン活動助成、福祉関係団体の育成援助、心配ごと相談所事業等を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて失業や減収した方を対象とした生活福祉資金特例貸付に関しては、令和4年9月30日をもって受付を終了しましたが、借入者に対して令和5年の償還開始に向けた事務的な支援を行っており、今後も継続的な支援が求められております。

災害に対する関係団体との連携では、令和4年3月16日の福島県沖地震発生時に町との協定に基づき災害ボランティアセンターを速やかに設置し、町民ボランティアによる住家の片付けや技術ボランティアの協力による屋根の応急処置を行い、被災者支援を令和4年4月25日まで行いました。

在宅福祉サービスの推進では、介護保険事業として訪問介護事業・居宅介護支援事業の運営を行ったほか、ひとり暮らし高齢者給食サービスや集合サービス、高齢者世帯交流会、福祉用具の貸出、外出支援サービスを実施しました。

1. 組織体制の充実と自主財源の確保

(1) 会議開催等

理事会2回、評議員会2回開催し、21件の議案について審議した。監査会は事業部門及び経理部門を精査し、適正に処理されていることが確認された。

(2) 連携強化

行政区長、民生児童委員協議会及び福祉団体、ボランティア団体等との連携を密にし、組織の充実に努めた。

(3) 財源基盤の強化の推進

社会福祉協議会の事業運営は、町からの補助金と会員の会費によって行っている。行政区長のご協力をいただき、全戸会員を目指し募集にあたった。

① 会 費

会員区分	金 額	内 訳
一般会員	2, 269, 000円	1,000円×2,269戸
特別会員	340, 000円	10,000円×2名、5,000円×52名、議会議員互助会
法人会員	770, 000円	30,000円×5社、20,000円×1社、10,000円×60社
合 計	3, 379, 000円	

② 寄付金

件数	金 額
10	735, 000円

2. 地域福祉の充実

(1) 地域福祉事業の推進

① 民生児童委員協議会やボランティア団体との協働活動の強化

ア 民生児童委員協議会の開催

民生児童委員並びに主任児童委員の職務を円滑に遂行するため、毎月協議会例会を開催し、情報の共有と研修を行った。

●民生児童委員協議会の状況

民生児童委員	主任児童委員	合計
24人	2人	26人

●民生児童委員の活動状況

相談・支援	訪問	連絡調整	活動日数
196件	5,100回	2,477回	3,475日

イ 民生児童委員協議会との協働活動

高齢者の状況に応じたサービスの提供と、緊急時に対応するため民生児童委員からの「高齢者福祉票」によりその把握に努めた。

●高齢者福祉票の状況（対象者：70歳以上）

区 分	R4. 3. 31 (世帯)	増減	R5. 3. 31 (世帯)
高齢者世帯	101	-6	95
ひとり暮らし高齢者世帯	159	4	163
合 計	260	-2	258

② 老人クラブ活動育成

高齢者の生きがいと健康づくりのために、地域の老人クラブの果たす役割は大きい。そこで、町老人クラブ連合会及び単位老人クラブが行う活動の充実と発展を図るため、老人クラブ指導員1名を配置して老人福祉の増進に努めた。

●単位老人クラブ数

13クラブ

●クラブ会員数

(単位：名)

令和3年4月1日			令和4年4月1日			増減
男	女	計	男	女	計	
238	347	585	223	309	532	-53

③ いきいきサロン活動助成

地域において参加者が主体となって自主的に運営し、仲間づくりの輪を広げたり、社会参加を促進したりしている地域のつどいの場（いきいきサロンの運営を支援することにより、地域福祉活動の推進を図った。

●いきいきサロンの状況

21団体 助成額490,611円

自主的に運営し、閉じこもりの防止と生きがいづくりに努めた。

開設地区

〔 沢口 鉄炮町 大山田 明地 中里 木崎 作田 上真弓 下真弓 岡 杉目
新地町 高齢者共同住宅 雁小屋 大戸浜 今泉 菅谷 高田 駒町 富倉 〕

④ 福祉関係団体の活動助成

福祉団体に対し、活動費の助成及び事務的援助を行った。

10団体 助成額230,000円

⑤ 社協だより「まごころ」の発行、ホームページの活用

社協だより「まごころ」を3回発行した。ホームページを用いた活動報告及び情報提供に努めた。

⑥ 生活資金に関する相談支援、貸付状況

●生活資金に関する相談支援

30件

●生活資金の貸付状況

・生活援助資金（新地町社会福祉協議会）

3件 130,000円

- ・生活福祉資金（福島県社会福祉協議会）
0件
- ・生活福祉資金 コロナ特例貸付（福島県社会福祉協議会）
7件 1,500,000円

- 生活困窮者自立支援事業（福島県社会福祉協議会）
支援調整会議 1回（対象者 4名）
持ち回り会議 8回（対象者42名）

⑦ 心配ごと相談所事業の推進

町民の日常生活上の悩みごと相談に応じ適切な助言を行うため、相談員8名の交代制により、相談所を毎月3回開設した。相談内容も複雑多様化しているため、弁護士による無料相談会を3回開設した。

●心配ごと相談

相談者 11名 相談件数 11件（家族関係、土地、就労について）

●弁護士無料相談会

相談者 4名 相談件数 4件（土地、借金について）

⑧ 介護教室の開催

●実施日 令和4年6月2日

対象者 尚英中学校3年生（73名）

内容 高齢者疑似体験
車椅子の介助方法について学ぶ

●実施日 令和5年2月2日

対象者 新地小学校4年生（30名）

内容 高齢者疑似体験
点字学習を通して視覚障害について学ぶ

⑨ 災害に対する関係団体との連携

福島県沖地震被害に伴う支援（令和4年3月16日 23時36分頃発生 震度6弱）

- ひとり暮らし世帯159世帯、高齢者世帯102世帯に対し、戸別訪問及び電話連絡により、安否確認と被害状況確認を行った。

●新地町災害ボランティアセンター設置（令和4年3月24日～4月25日）

支援内容：屋根の応急処置、被災家具等の処分、瓦等の片付け

対象者：ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯、母子父子家庭、
病気や障害、経済的理由等により支援が必要な方。

ボランティア対応件数

一般ボランティア	49件
技術ボランティア	70件
合計	119件

※みらいと対応件数含む

ボランティア活動人数

一般ボランティア	152人
技術ボランティア	419人
合計	571人

※みらいと活動人数含む

ボランティア活動保険加入者

一般ボランティア	10人
技術ボランティア	40人
合計	50人

(2) 生活支援体制整備事業の推進（新地町委託事業）

高齢者が住み慣れた地域で支え合い安心して暮らせる地域づくりを目指し、生活支援コーディネーターが、町内各地で開催されているいきいきサロンを訪問支援した。新型コロナウイルス感染症の影響により活動の自粛や制限もあったが、感染対策を行ったうえで、社会とのつながりを切らない活動が行われてきた。

また、ご近所支え合いを更に広げていくため、定期的に地域づくり勉強会を開催し、支え合いの活動の紹介や地域の支え合い活動（地域のお宝）の意識化に努めた。

3月には、「地域の宝物」や「地域支え合いマップ」地域活動の様子などを盛り込んだ「ご近所支え合いガイドブック」を作成。全戸配布し地域支え合いの「見える化」「見せる化」に取り組んだ。また、地域で元気に活動している「いいね！グループ」4団体を顕彰した。

作田（やよい会）、岡（岡ハッピークラブ）、大戸浜（大戸浜百の生会）、駒町（101の会）

3. 在宅福祉サービスの推進

(1) 高齢者福祉事業

① 介護保険制度に伴うサービスの提供

ア 居宅介護支援事業（ケアプランの作成）

要介護1～5	
実利用者数	59人
延べ取扱件数	451件

イ 訪問介護事業（身体介護・生活援助）

	要介護1～5		備 考
	実利用者数	延べ回数	
身体介護	7人	2, 114回	
生活援助	10人	444回	洗濯、清掃、買物等
身体生活	3人	190回	介護と家事の複合型

ウ 総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）

	要支援1～2		備 考
	実利用者数	延べ回数	
身体介護	0人	0回	
生活援助	11人	351回	洗濯、清掃、買物等

② ひとり暮らし高齢者給食サービス事業の実施

おおむね70歳以上のひとり暮らし高齢者で民生児童委員を通して高齢者福祉票が提出されている方を対象に給食サービス事業を実施した。

ア 配食サービス

民生児童委員の協力により昼食を自宅に届けることにより、定期的かつ継続的な見守りを行った。

年間配食回数	36回（月3回）	2, 933食
--------	----------	---------

イ 集合サービス（ふれあいのつどい）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、戸別訪問に変更した。

実施日 令和4年5月16日～6月29日

対象者 福祉票提出の70歳以上のひとり暮らし高齢者 160世帯

内 容 職員が戸別訪問し、体調確認しながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止や悪徳商法注意パンフレットを配付した。

③ 高齢者世帯交流会の実施

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、戸別訪問に変更した。

実施日 令和4年7月11日～7月29日

対象者 福祉票提出の70歳以上のみの高齢者世帯 98世帯

内 容 職員が戸別訪問し、体調確認しながら、新型コロナウイルスの感染拡大防止や悪徳商法注意パンフレットを配付した。

ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯合同交流会の実施

実施日 令和5年3月29日

参加者 93名（うちボランティア会5名含む）

内容 東北各地で活躍する落語家・六華亭遊花氏によるステージ

④ 福祉用具貸出事業

本会が有する物品の有効活用を図り、地域福祉の向上に資することを目的に福祉用具等の貸出を行った。

ア 介護福祉用具

車イス利用者数 10名

ギャジベッド利用者数 5名

イ 地域福祉用具

レクリエーション用具等を地域団体やサロン等に貸し出した。

⑤ 新地町要援護高齢者等外出支援サービス事業（新地町委託事業）

外出支援サービス事業	利用者 1名	回数 4回
------------	--------	-------

(2) 障がい者福祉事業

① 身体障がい者福祉協会、手をつなぐ親の会事業への協力

ア 新地町身体障がい者福祉協会

身体障がい者の福祉増進を図るため、県身体障がい者福祉大会への参加、レクリエーション交流会など、身体障がい者福祉協会が実施する事業を支援した。

イ 新地町手をつなぐ親の会

心身障害児者の福祉増進を図るため、会員間の交流を支援した。

4. 福祉ボランティアの町づくり事業の推進

(1) 奉仕活動啓発推進

① ボランティア団体の育成・支援

ボランティア連絡協議会事業への協力支援

② 情報、資料の提供、ボランティア活動保険への加入促進

ボランティア活動保険の加入状況

令和3年度加入者	令和4年度加入者	増減
520名	523名	3名

5. 共同募金・日本赤十字活動の推進

(1) 共同募金、歳末助け合い運動及び募金活動の推進

① 共同募金、歳末助け合い運動の実績

募金項目	目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)
赤い羽根共同募金	1,382,000	1,417,319	102.56
歳末助け合い運動	1,190,000	1,187,502	99.79

② 歳末助け合い募金配分事業

●商品券での配分

配分対象	配付件数	利用枚数	金額(円)	備考
(1) 在宅重度障害者で下記に該当する方 身体障害者手帳1・2級、療育手帳A、精神障害者保健福祉手帳1級	37	185	185,000	一人当5枚
(2) 在宅で要介護3以上の高齢者を介護している方	38	189	189,000	一人当5枚
(3) 準要保護児童生徒就学援助費を受給している世帯(保護者)	53	87	87,000	一人当2枚
(4) 世帯全員が70歳以上の高齢者のみの住民税非課税世帯	52	100	100,000	一世帯当2枚
(5) 70歳以上のひとり暮らし高齢者で非課税世帯	116	213	213,000	一世帯当2枚
合計	296	774	774,000	

●町内福祉施設への配分

7施設 合計210,000円

●生活困窮者支援としてフードバンクの提供

59件

(2) 赤十字思想の普及と社員増強運動の推進

日本赤十字社費の実績

募金項目	目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)
日赤社資運動	1,189,000	1,162,500	97.77

6. 日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)

判断不十分な方への福祉サービス利用援助・日常的金銭管理サービス・書類等の預かりサービス及び生活全般にわたる相談・助言の提供。

金銭管理・書類等の預かり	利用者1名
--------------	-------

7. 東日本大震災による被災者の支援

福島県社会福祉協議会より委託を受け、生活支援相談員2名を配置し、防災集団移転団地・災害公営住宅・自主再建世帯等への全戸訪問を定期的に行い、被災者の生活相談に応じた。必要に応じて、保健・福祉関係者及び行政との連携を図り状況把握に努め、孤立防止等の支援を行った。

なお、3月16日の福島県沖地震発生直後には、支援が必要と思われる被災者の安否確認や被害状況把握につとめ、行政や関係機関につなぎ迅速な対応につとめた。

見守り・相談支援世帯数

(令和5年3月31日現在)

	世帯数	うち65歳以上の世帯数	入居者数 (名)
公営住宅	3	1	11
災害公営住宅	105	59	216
自主再建した住宅・アパート	247	164	750
避難先で自主再建した住宅・アパート	56	23	184
合計	411	247	1,161

8. 福祉サービスに関する苦情解決体制

福祉サービスに対する利用者の満足度を高め、利用者個人の権利擁護と適切な利用を支援するとともに、苦情に対して社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で円滑、円満な解決を推進し事業所への信頼や適正性の確保を図ることを目的に苦情解決体制を整え対応している。(令和4年度苦情等件数：3件)

新地町社会福祉協議会が事務局を担当する団体

1. 老人クラブ連合会
2. 身体障がい者福祉協会
3. 手をつなぐ親の会
4. 戦没者遺族会
5. 民生児童委員協議会
6. ボランティア連絡協議会
7. 赤十字奉仕団
8. 日本赤十字社福島県支部新地町分区
9. 新地町共同募金委員会